

「あなたの立ち位置は」 ～あなたはどこにいるのか判っていますか～

マタイ18：12～14

私たちは日々の生活の中で忙しさを感じていることが多くあります。そして忙しいと焦りを感じながらものごとに取り組むようになります。その焦りが募っていくと、少しの事でいらいらしてしまい、本来しようとしている事や願っている事ができなくなってしまうことがあります。今では当たり前になりましたがカーナビゲーションシステム（カーナビ）があります。目的地を設定したら、最適なルートを探して案内をしてくれる大変便利なものです。そして案内をしてくれるだけでなく、カーナビは現在の自分の位置を瞬時に教えてくれる点が優れている点ではないでしょうか。自分の位置を教えてくれるGPSという機能は時代が進み携帯電話などの電子機器にも搭載されるようになりました。現在のGPS機能は地上から2万キロ上空に配備された4つの衛星からの情報を合わせることでほぼ正確に特定できるようになりました。このように技術は進歩して、自分の居場所を特定できるようになっています。私たちが現在どこにいて、どこへ向かっているのかを教えてください。では私たちの人生に置き換えるとどうでしょうか。自分の立ち位置や現在地を理解していないとすればどのようになってしまうのでしょうか。私たちの心の居場所や立ち位置が分からないといけません。それが“ズレ”てしまっていると、本来の働きやするべきことができなくなってしまう。私たちは今、人生のどこにいるのかそしてどこへ向かっているのかを理解する事が大切なのです。私たちの周りのいる人や環境から、いろいろな情報が入ってきます。その時、自分が自分の事をしっかりと理解していないと揺れ動く葦のように状況によって右往左往することになり、結果として自分が疲れてしまうのです。その疲れが心に「もういいや」というあきらめを生じてさせていきます。何か問題に直面すると開き直ったりしてしまいます。私たちの人生の中でこの“諦め”と“開き直し”をしないようにしなければいけません。これを繰り返していると私たちが目的地へ向かうことを止めてしまうからです。前に向かって進むことを止めてしまったら、問題ばかりに目がむくようになります。そして問題の中では私たちは物事を客観的に見る事ができなくなります。私たちは冷静さを失っていくと、自分の立ち位置が見えなくなってしまうのです。私たちは完全ではありませんので失敗をすることもあります。しかしその時こそ、自分の立ち位置をしっかりと見出しければ、どのように立ち上がるのかが分かります。「ソールサーファー」という映画がまもなく公開されますが、主人公はプロのサーファーになるのが夢でした。しかしサメに襲われ片腕を失うような事故にあったとしても、もう一度プロのサーファーになるために立ち上がりました。その決断には神の計画と将来おける希望があるということを感じたからでした。（エレミヤ29：11）「わたしはあなたがたのために立てている計画をよく知っているからだ。——主の御告げ。——それはわざわざではなくて、平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。」（1コリ13：13）「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」このように私たちには神によって将来が用意されている事を信じ、神が私たちを愛していることを信仰によって受け入れたので主人公は自分の居場所を見つけることができました。私たちは自分の居場所を自分で見つけることが大切です。しかし私たちはその時々感情によって自分の居場所を見つけてしまいます。しかし感情によっては本当の居場所を見つけないことはできません。すなわち感情的な行動は迷子になっていることと同じです。（マタイ18：12～16）神は私たちが迷子になっている事を望んでいません。この羊と羊飼いのたとえを通して神は迷子になってしまっている私たちを探し、見つけたらどれだけ喜んでくれるのかということを知っています。私たちが本来の自分を見つけるために教会に来ているのです。それは私たちが何のために生まれ、どこに向かっているのかを見つけるということです。私たちはそれを見つけ、未来を見て歩んでいくことが大切です。しかし、私たちはなぜそのような問題が起こったのかと過去に捕らわれてしまいがちです。そしてそこから抜け出すことが容易にはできないかもしれません。しかし神が用意して下さっている私たちの将来は「わざわざではなくて、平安を与える計画です。」ですから私たちは神にある自分の居場所を見つけることができるのです。旧約聖書の出エジプト記にユダヤの民が神の奇跡をたくさん経験しながら、カナンという約束の地を目指して歩んでいることが書かれています。約束の地に向かって進んでいった彼らはもう少しで約束の地に入れる荒野で40年を過ごすことになりました。それは民が神に対する不平不満と元の場所であるエジプトの方が良かったのではないかという思いに流されてしまったからでした。約束の地を前にして12人が先遣隊として偵察をしにいきました。12人内10人は否定的なことを伝え、残りのヨシュアとカレブだけは約束の地へ進むように伝えました。ヨシュアとカレブは、神が私たちに与えられている将来を見て報告しました。しかし民は否定的な報告をした人々に流されてしまいました。それ故に荒野をさ迷うことになりました。ヨシュアとカレブのように私たちも神が用意している自分たちに対する将来を見て判断しなければいけません。しかし私たちは様々な状況から将来を見る事ができなくなってしまうので教会を与え、自分の立ち位置を教えているのです。（ヘブル3：6～15）私たちは心がかたくなになっていないでしょうか。自分たちの心を動かすのは感情だけというような状況になっていないでしょうか。私たちは迷い⇒慌て⇒感情的になり⇒怒り⇒目的を失うというサイクルに陥っていないでしょうか。これは目的地や自分の立ち位置などが全く理解していないということになります。本来の目的を失ってしまうと自分がやらなくてもいいことをやるようになっていきます。それは結果として何も残りません。敵である悪魔はこのようなようにしむけてきます。このようなサイクルにいと私たちは開き直るようになります。それか傍観者ようになり、問題を直視する事ができなくなります。ですからこのサイクルから抜け出し、自分の立ち位置を確認する必要があります。私たちが自分の立ち位置を知る目的は私たちの周りの人々に将来を希望を伝えるためなのです。そのためにはまず自分が迷わないようにしなければいけません。（ヤコブ5：19～20）私たちが迷っている人々を立ち返らすことができれば、その人のいのちを救うことになります。イエスキリストは私たちを迷いの道から救うために十字架にかかりました。私たちの失敗を引き受けてくれました。私たちが的外し歩んでいた人生の中で、周りの人々を傷つけてしまったりしたことを私たちの代わりに十字架で背負ってくれました。イエスキリストの十字架上の祈りには的を外している、迷っている人々の罪を赦し、そこから正しい道を見出すことができるようということです。私たちに与えられている教会や家族は本来の目的を見出すためなのです。私たちが将来と希望を持った人生を歩み、将来と希望を伝えていくために、私たちの立ち位置を理解する必要があります。忙しさや焦りの日々で迷いながら歩むのを止めて、将来と希望を伝える人になっていきましょう。（要約者：平澤一浩）